

新潟市文化財センターの紹介

新潟市文化財センター所長 高橋 保

北区にあった新潟市埋蔵文化財センターに替わるものとして、新潟市文化財センター(通称 まいぶんポート)が西区木場に新しくオープンしました。

新潟市内には、旧石器時代から江戸時代に至る七百か所以上の遺跡が知られています。平成十七年の十四市町村の広域合併後の各種開発事業等の増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどり、新たに発見される遺跡も年々増加しています。当センターは、各種開発事業や史跡整備等に伴う発掘調査を行い、出土遺物の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために、設置されました。

敷地面積は九千九百六十六平方メートルで、敷地内にはセンター本館のほか、移築された市指定文化財の旧武田家住宅と畜舎があります。

センター本館は三階建てで、建築面積約二千五百六十平方メートル、延べ床面積は約四千五百平方メートルです。一階にはエントランス(速報展示用のガラスケース大小計4個)、展示室、

研修室一・二(テーブル付で約百人収容。研修室二は通常体験学習室として利用)、保存処理室、特別収蔵庫、民俗資料収蔵庫(旧黒埼町で保管されていた民具で蒲原地方の農具、漁具、生活用具など)等があります。

展示室は一・二に分かれています。一・二合計の広さは二百六十三平方メートルで、展示点数は約千四百点になります。展示室一は導入展示で、「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した土器・木製品を壁いっぴりに展示しています。木製品は通常残りにくいものですが、新潟市は低湿地遺跡が多くあるため出土量が多いことが特徴です。木簡(展示は複製品)は重要な発見となったものもあり、最近では南区馬場屋敷遺跡・浦廻遺跡出土の木簡が注目されています。

展示室二は三部門に分かれています。まず「新潟市文化財センターの活動」では、日ごろ私たちが行っている業務を紹介しています。発掘調査現場の様子を再現した西区四石遺跡の

研修室一・二(テーブル付で約百人収容。研修室二は通常体験学習室として利用)、保存処理室、特別収蔵庫、民俗資料収蔵庫(旧黒埼町で保管されていた民具で蒲原地方の農具、漁具、生活用具など)等があります。

旧武田家の隣にある畜舎は明治から昭和初期にかけて蒲原平野の農家の多くに備えられていた牛馬を使う脱穀施設です。旧黒埼村あたりでは「カラカサ小屋」と呼ばれることが多かったようです。この畜舎は大正十年頃(昭和十二年頃まで)実用され、西区板井(旧黒埼町板井)の木工、荻野氏が製作したと伝えられています。

当センターでは、いろいろな催し物も行っています。

八月二十一日には、開館を記念してシンポジウム「遺跡からさぐる新潟の原点」新潟の低湿地は歴史の宝庫」を新潟市民プラザで開催しました。新潟にゆかりのある先生方を招いてのシンポジウムで、沢山の人においでいた



文化財センターの外観



エントランス



展示室



- お車でお越しの方
北陸自動車道黒埼スマートインターを北へ約9分(2.9km)
新潟西インターを南へ約16分(6.0km)
- 電車をご利用の方
JR新潟駅から車で約39分(14.4km)
JR越後線 寺尾駅から車で約18分(6.1km)



新潟市文化財センター

「新潟市文化財センター」
住所：〒950-1122 新潟市西区木場2748-1
電話：025-378-0480 FAX：025-378-0484
E-mail：bunkazai@city.niigata.lg.jp
開館時間：9:00～17:00
休館日：月曜日・休日の翌日・年末年始(12月28日～1月3日)
入館無料

ジオラマや作業の流れを解説した映像もあります。次の「遺跡が語る新潟の歴史」は、市内から出土した旧石器時代から江戸時代までの遺物が展示され、身近な歴史を見ることが出来ます。

は、各地からの土器の流入があります。縄文時代以来、各地域との交流が盛んであったことがわかりただけです。保存処理室は、新しく導入された設備であり、木製品や金属製品などの腐食や劣化を防ぐために理化学処理を行います。もうい遺物が多いため、細心の注意を必要とします。

特別収蔵庫は、保存処理が終了した金属製品や木製品を収蔵します。温湿度が管理され、劣化を防ぎます。二階には、調査研究室、図書室、資料収蔵庫、遺物洗浄室、写場、ボランティア室、埋蔵文化財収蔵庫などがあります。調査研究室は、調査記録や遺物の整理、報告書作成などを行う部屋です。埋蔵文化財収蔵庫は二・三階にあり、深さ十五センチメートルの通常の収納箱で約四万箱が収蔵可能です。現在、約一万三千箱分の遺物を収蔵しています。